



佛國
高法會社條例釋義

1633



114
A 2788



。目錄

第一章

會社ノ種類及其規則

第一丁表

社員相互ノ約束

第三丁表

社員ヲ他人外會社ニ對スル約束

第十三丁表

會社ノ終ル方法

第十四丁表

會社解散ノ決算

第十九丁表

差金會社

第六丁表

無名會社

第五十一丁表

共分會社

第六十一表

大正十一年四月
侯爵郵寄贈

佛國會社條例釋義

第一章 會社ノ種類及ヒ其規則

商法十八條ニ曰會社ノ契約ハ民法商法及ヒ双方ノ約束ヲ以テ之ヲ規定ス

故ニ凡ソ會社^社成立ノ基礎タル所ノ一般ノ主義ハ該條ニ於テ之ヲ民法ニ譲リタルヲ以テ乃チ民法第千八百三十二條ニ掲ケタル會社ノ義解ハ民法上ノ會社ニモ同一ニ之ヲ適用ス即チ曰

會社トハ二人若ハ數人ニテ互ニ物ヲ共用シ之ニ同テ生ス一キ利益ヲ分クントスル契約ナ

リトス

之ニ依テ高法會社ノ性質ハ商業ト看做シタル
事業ヲ行社員ノ間互ニ分ツヘキ利益ヲ得ベキヲ
ノ護利ノ所為ヲ目的ト為スニアリ

會社ハ即チ契約タルニ因リ必ス各人ノ同意一
致シテ會社ト称スル合同無形ノ一物ヲ成立ス
ル所ノ承諾協議ニ出テタルモノトハ之ヲ會社
ノ成立ニ先チテ必要ナル條件ト為ス

凡ソ會社ハ法ニ適シタル事物ヲ目的トシ且
各員共同ノ利益ノ為メ之ヲ結成シ各社員ハ

貨幣若クハ他ノ財産若クハ其勞力ヲ供出スヘ

一キモノトス(民法第百三十三條)

高法會社ニ於テモ民法會社ニ於テモ當テニ其目
的ノ法ニ適シタルコト即チ法律ニ禁制ナク良正
ノ風儀ニ戾ラサルヲ要スルノミナラス猶ホ其目
的トスル所ノ物件ノ賣買スルヲ得ヘキモノシ
コトヲ要ス故ニ引ヒシエリニステリエル書代
人代言人公証人使吏株式ノ職就中公證人代書
人公賣人商賣者諸人ノ職就中公證人代書
人ノ職業ハ高法會社ノ目的ト為メ得
高法會社成立スレハ忽チ無形人トナレナリ然
而

ノ其人タル素ト数人合同ニ因テナルト至モ社會
 員各箇ノ人タル所トハ全ク殊別ノモノニシテ社員
 各個ト其利害ヲ異ニス其區別ノ断然タル無カナ
 ル社員ノ債主ニ於テ其負債主ヨリ會社ノ資産中
 ニ加入シタル賤債ヲ差押フルコトヲ得ス止テ會社
 解散ニ至リ其資産ヲ各社員ニ分派スルノ際其負
 債主ノ得ヘキ分前ヲ差押フルコトヲ得ルノミトス
 各社員ハ恰モ社外人ノ如ク會社ト契約ヲ結ヒ相
 互ニ權利ヲ得責ヲ負フニ義務アリカク得
 會社契約ト的ナス所百五十元以上ノ價ナル

其ハ其契約ハ書面ヲ以テ證トス
 其目的ト為ス所百五十元以下ノ價ナルハ
 雖モ其契約書ニ記シタル所ヨリ餘分ノ事又ハ
 契約書ニ記シタル所ヨリ餘分ノ事ハ證人ヲ以
 テ證スルコトヲ得ス又其契約書ヲ記シタルハ又
 ハ其前後ニ言説シタリト云フ所ノ莫モ亦證人
 ヲ以テ證スルコトヲ得ス民法第千八百三十四條
 社員相互ノ約束
 結社ノ定約書ヲ以テ別ニ期限ヲ定メタルコト
 キ其ハ會社ハ成立ノ契約ヲ為シタル所ヨリ之

ヲ行ヒ務ムベキモノトス(民法千八百四十四條)
別段ノ契約アルニテラサレハ會社ノ契約ハ双
方ノ協議一致ニ依テ之ヲ取結ビシハヨリ直ニ
行ヒ初ムニレト雖モ實際多ク約定ヲ以テ其行
初ノ期ヲ定ム然レモハ抗拒スヘカラサル事變
ニ因テ妨ケラレサル以上ハ双方ニ於テ其約定
ヲ遵守スヘキナリ

會社ノ繼續スヘキ時間ノ約定ナキ時ハ第千八
百六十九條ニ記スル所ノ外社員ノ畢生間繼續
スヘキモノト看做ス又繼續ノ期限ノ定限アル

事業ニ付テノ會社ハ其事業ノ繼續スル時間繼
續スル時間繼續スヘキモノト見做ス(民法第千
八百四十四條)

社員中一人ノ意ニ因リ會社ヲ解クトハ無期限
ノ會社ニ限リ各社員ニ其會社ヲ退去セントス
ル旨ヲ告知シテ之ヲ為スヘシ但退去ノ事實實
ノ意ニ出テス又ハ時宜ニ適セサル時ハ之ヲ許
サス(民法第千八百六十九條)
商法會社ニテ無期限ノモノハ太ク稀ニシテ多
ク其創立定款ヲ以テ解止ノ時期ヲ定ム

各社員ハ會社ニ供出セント約シタル諸物件ニ
付會社ノ負債主トス若シ其物件別段定リタル
物ニテ他人ノ訴訟ニ依ラシク奪ハル、トアル
時其之ヲ持出シタル者ハ仍ホ賣主ノ買主ニ於
テト均シク會社ニ數シテ其保證人ト為ス(民法
第千八百四十五條)

會社ハ社員ノ供出セント約シタル物件ヲ催收ス
ルノ權アルノミナラス其違約ニ因テ生シタル損
失ノ賠償ヲ要求スルノ權アリ

社員ニ於テ會社ニ金高ヲ供出スヘキノ約束ヲ

為シ其事ヲ行ハサルハ別ニ訴ヲ要セス當然
其金高ヲ渡スヘキ日以来ノ利息ヲ拂フヘキノ
責ニ於テハ會社ノ資本中ヨリ取
出シタル金高ニ付テモ亦之ヲ取出シタル日以
來ノ利息ヲ拂フヘキノ責ヲ負フヘシ猶ホ別段
ノ道理アルハ更ニ多量ノ賠償ヲ為スヘキモ
ノトス(民法第千八百四十六條)

社員ニテ其勞力ヲ會社ニ供出スヘキヲ約束
シタル者ハ其勞力ニ因リ得タル利益ヲ會社ニ
數シテ算計スヘキモノトス(民法第千八百四十

七條

勞力ヲ會社ニ供出セント約シクル者其約條ヲ履
行セサルハ金額ヲ供出セント約シ其事ヲ行ハ
サル者ノタメ定メタル第千八百四十六條ノ例ニ
依リ其責ヲ負ハシム然レモ抗拒スヘカラサル事
故ニ因リ約條ヲ履行スルヲ得サルハ之ヲ宥恕
スヘシ是レ第千八百四十六條ニ掲クル所ノ金額
ヲ供出セサル者ノタメ聽サル所トス
社員タル者ハ會社ニ向テ履行スヘキ責任一ニソ
足ラズ第一常ニ実直ナル協賛ヲ共ヘ且アル場合

ニ於テハ自己ノ利益ヨリ會社ノ利益ヲ專一トセ
サルヘカラス乃チ法律ニ於テ其場合ヲ詳悉シテ

曰

社員中ノ一人自己ノ算計ニ付人ヨリ金高ヲ得
ヘキ權ヲ有レ會社モ亦其人ヨリ同一ノ權ヲ有
スルハ縱令既ニ其負債主ヨリ金高ヲ受取り
其受領證ニ其金高ノ全部ヲ自己ノ得ヘキ部分
ニ充ツヘキ旨ヲ記シタルト雖モ自己ノ得ヘキ
部分ト會社ノ得ヘキ部分トノ割合ヲ以テ其受
領シタル金高ヲ双方ニ充テ用エヘシ若レ又其

受領證ニ其受領シタル金高ノ全部ヲ會社ノ得
ヘキ部分ニ充ツヘキ者ヲ記シタルハ其記シ
タル所ノ如ク執行スヘシ(民法第千八百四十八
條)

若シ債主タル社員ノ所見ヲ以テ其受取リタル金
高ヲ會社ノ得ヘキ金高ニ比準シテ之ヲ分テ充ツル
ヲ能ハサルハ例ヘハ負債主ニ於テ其支辨スル金
額ヲ分割セズ特ニ其債主タル社員ノ私ニ得ヘキ
部分ニ充シテ之ヲ要求スルハ該社員ヲ強テ前
記シタル民法第千八百四十八條ニ從ハシムルヲ

ヲ得ス蓋シ此場合ニ於テハ民法第千二百五十三
條ニ數個ノ負債アルハ其中ノ何ヲ先ニ辨償セ
ントスルカハ負債主ノ申告スル所ニ任ストノ明
文アルヲ以テ負債主ノ權完全ニシテ動カスヘカ
ラス
然レハ此條規ハ專ラ民事ノ性質ヲ有シ商法會社
ノ為ニハ其種類ニ依テハ適用スヘカラサル者ヲ
リ即チ社員悉皆直接ニ連帯シテ責任ヲ負フ所ノ
合名會社ニ適用スヘト虽モ社員ニ連帯ノ責任ナ
ク且隨意ニ會社ノ事務ニ于涉スルヲ得サル差

金會社ニ適用スヘカラス

社員中ノ一人會社ノ全員ト共ニ得ヘキ金高中
ニテ已ノ得ヘキ部分ヲ悉皆受取リタル後負債
主其他ノ部分ヲ盡スト能ハサルニ至リシ中ハ
縱令其既ニ得タル所ハ特ニ已ノ部分ナリト爲
スヲ其受領証ニ記シタリト雖其受領シクル
金高ヲ會社財産ノ合部中ニ返還スヘシ(同第千
八百四十九條)

各社員ハ已ノ過失ニ因リ會社ニ被ラシメタル
損失ヲ償フヘキモノトス但シ他ノ事ニ付キ具

者ノ学力ニテ會社ニ得セシメタル利益ヲ其損
失ト相殺スルヲ得ス(同第千八百五十條)

法律ニテ指定シタル此責任ハ頗ル漠然タル所
ルニ因リ到底審司ノ考案ヲ以テ之ヲ斟酌セサル
ヘカラス何トナレハ抑々此ノ責任ヲ定ムル所以
ノ理由ハ必ス事實及ヒ其情狀ノ鑑定ヲ審司ノ所
見ニ放任シタル場合ニ當ラサレハ視出スヘカラ
サレハナリ

別段定リシ物件ノ入額所得權ノミヲ會社ニ供
出シ其物件ハ之ヲ使用スルニ因リ耗損セサル

モノタルハ其物件ノ所有者タル社員全ク其
損失ヲ已ニ擔當スヘシ

若シ其物件使用スルニ因リテ耗損スヘキモノ
タルハ又ハ之ヲ保テ置テハ損毀スヘキモノヲ
ル件又ハ會社ノ為ニ賣拂ハントシ目錄ニ其
價ヲ記シ之ヲ供出シタルハ會社ニテ其物件
ノ損失ヲ擔當スヘシ

其物件ヲ評價シタル時ハ後ニ其物件滅盡スル
正其所有者タル社員ハ其評價シタル價格ノ外
取戻スコト得ス 同第千八百五十二條

要スルニ會社ニ供出シタル物件ノ損失會社若シ
ハ社員ノ中其所有權アル者ト判定スヘキ者之ヲ
負擔スヘキモノトス然リ而シテ其事實ノ如何ハ審
司ノ鑑定ニ委テ其約束ノ如何ハ約定書ノ解釋ニ
依テ之ヲ定ム

社員ニ於テ會社ノタメノ自己ノ金田ヲ支出シタ
ル時ハ其返還ヲ要ムルノ權アルノミナラス會
社ノ事務ノ正實ニ契約シタル責ノ義務及ヒ
會社ノ事務ヲ管理スルニ因リ止ムヲ得ス
受ケタル損失ノ辨償ヲ要ムルノ權アリトス 民

法第千八百五十二條

此規畫、民法第千八百四十五條第千八百五十條
ニ至ルマテ定示シタル會社ヨリ社員ニ數レ有ス
ル所ノ權ニ相數照ス

會社ノ規程創立證書及ヒ定款ヲ想録ニ各社員

ノ得ヘキ利益ト其擔當スヘキ損失トニ付キ別

段其割合ヲ定メタルトナキハ各員會社ノ資

本中ニ加入シタル金高ニ準シテ其割合ヲ定ム

ヘシ

勞力ノミヲ會社ニ供出シタル者ノ得ヘキ利益

及ヒ損失ノ割合ハ會社ノ資本中ニ取モ少量ノ

金高ヲ加入シタル者ノ割合ニ均トス(民法第千

八百五十三條)

一ノ產業ヲ經營スル為メ資本金ヲ募集シ各社員

ノ得ント因ル利益ハ畢竟勞力ヲ以テ有一ノ目的

ト為スト多キニ因リ社算中ニテ自己供出ノ部分

ト~~ニ~~供出シタル勞力猶ホ重大ノ價值ヲ有スル

アルヘシ果ノ然ルハ該社員ニ於テ特別ノ約束

ヲ結ビ以テ自己ノ利益ヲ預定スルヲ注意スヘ

シ是レ寔ニ當然ノトナリト雖モ萬一之ヲ怠ル

ナキヲ保テ難キヲ以テ會社ノ營業損失ニ至ル等
極ノテ不利ノ場合ニ於テ該社員ノシノ家モ有利
ニシテ且ツ各社員中ニ於テハ家モ少量ノ高ヲ出
シクル者ニ准シタル適宜ノ處分ヲ定メク
會社中ノ各員其得ヘキ利益及ヒ擔當スヘキ損失
ノ割合ヲ定ムルヲ以テ其社中ノ一員又ハ會社
外ノ者ノ判斷裁ニ任ス一キヲ協議シクルハ
其判談ノ不條理ナルヲ分明ナルニ非レハ其事
ニ付テ故障ヲ速クシテ得ス(民法第千八百五
十四條)

何トナレハ此判斷ハ素ト双方協議約束ナレハナ
リ而シテ正當ニ結ヒタル約束ハ之ヲ結ヒシ双方ノ
者ノ為メ法律ニ等シキ効力アリ(民法第千百三十

四條)

其判斷ニ因リ損害ヲ被リタリト述ツル者アリ
ト雖モ其判斷ヲ知リタル時ヨリ三月以上ヲ經
過シ又ハ自ら其判斷ノ如ク執行シ始メシハ
一切其訴訟ヲ受理スヘカラス(民法第千八百五
十四條ノ續キ)
社員中ノ一人ニ利益ヲ全部ヲ與フヘキノ契約

ハ無効トス

會社ノ資本中ニ加入シタル金高及ヒ財産ヲ以テ會社ノ損失ヲ辨償スルニ充ツルヲナカラシムル契約モ亦無効トス（民法第千八百五十五條）
此契約ヲコソバンシヨシレオニ（強者自分勝手ノ約束ト云フ）ト称シ寂モ視易キ情理ニ戻ルモノトス故ニ審廳ニ於テ其契約ヲ勘査シ其全部ヲ舉テ悉ク無効ニ歸シ又ハ一部分ノミヲ除去シテ無効ト為ス一シ

會社ノ規程ヨ以テ會社ノ事務管理ノ方法及ヒ管

理人ノ權限ヲ定ム一シ

會社ノ事務管理ノ方法ニ付別段契約シタルトナキハ左ノ規則ニ循テ之ヲ為ス一シ

- 第一 各社員ハ其會社ノ事務ヲ支配スルノ權ヲ互ニ相與ヘタルモノト看做ス一シ
- 其一人ノ行為ハ別段他人ノ承諾ヲ得スト雖モ他人ニ對シテ其效アルモノトス但シ他人ハ其一人ノ行季ヲ成就スル前ニ故障ヲ述ルノ權ヲ有ス

第二 各社員ハ其會社ニ屬シタル物件ヲ慣用

ノ方法ニ使用シ且ツ之ヲ會社ノ利益ヲ阻害
セズ又ハ他ノ社員各其權利ニ因リ之ヲ使用
スルヲ阻害セサル時ハ其物件ヲ使用スル
ヲ得

第三各社員ハ他ノ社員ヲ會社ニ属スル物件
ヲ保全スルヲノ必用ナル費用ヲ出合サシム
ルノ權アリ

第四各社員中ノ一人ハ他人ノ承諾ヲ得クル上
ニ非レバ其會社ニ属スル不動産ノ模様ヲ更
改スルヲ得ズ但レ其一人其不動産ノ模様

ヲ更改スルヲ會社ノ利益アリト述ルハ

ト虽モ仍ホ然リトス(民法千八百五十九條)

各社員ハ自己ノ分前ニ付テハ同社員ノ承諾ヲ
得ルヲナクノ他人ヲ已レノ組合人ト為スヲ
得ル然レモ縱令會社ノ支配人トリト虽同社員
ノ承諾ヲ得ズノ他人ヲ其會社中ニ加入セシム
ルヲ得ス(民法千八百六十一條)

○社員ヨリ他人ニ對スル約定

商法會社ニ非サル他ノ會社ニ於テハ其社員連
帶ノ會社ノ負債ヲ擔當スルヲ要セズ且ツ別段

ノ權限ヲ受ケタルコトナク社員中ノ一人ニ於テ
他ノ社員ヲノ責ヲ負ハシムルコトヲ得ス(民法第
千八百六十二條)

社員ハ其會社ノ分前ノ高ニ付キ互ニ差異アリ
ト雖其債主ニ對シテ皆同量ノ金高ヲ擔當ス
ヘレ但シ其負債ノ證書ニ分前高ノ少キ者ハ債
主ニ償フヘキ金高モ亦少カルヘキヲ別段記
シタルハ格別ナリトス(民法第千八百六十三
條)

會社ノ為ノ契約スル者ヲ以テ契約シタリト雖

其契約ヲ成レタル社員ノ其責ヲ擔當スヘ
ク他ノ社員ハ之ヲ擔當スルニ及ハズ但シ他ノ
社員ヨリ會社ノ為ニ其義務ヲ契約スヘキ權ヲ
授ケタル時又ハ其一人ノ負フタル義務會社ノ
利益トナリタル時ハ格別ナリトス(民法第千
六百十四條)

以上說ノ所ニ依レハ凡民法會社ニ於テ其社員
中ノ一人又ハ數人ヨリ社外ノ他人ニ對スル契
約ノ事ニ付テハ會社ヨリ特別ノ許諾ヲ與ヘテ
契約セシメタル所ノ責ニアラサレハ之ヲ負擔

スルヲナレ是レ商法會社ノ他人ニ對スル關係ニ付法律ノ恩料スル所ト全ク相及レリルモノナリ後ニ至テ其果ヲ然ル所以ヲ了知スヘシ

○會社ノ終ル法方

會社ハ左ノ法方ニ因テ終ル

第一 會社創立ノ契約ニ定メテ期限ニ至ル事

第二 會社ノ財産全ク滅盡スルヲ又ハ會社ノ目的ヲ成ル事業ノ終成スルヲ

第三 社員タルモノ、死去

第四 社員ノ治産ノ禁ヲ受ケルヲ又ハ家資

分散ノ事ヲ為ス事

第五 社員中ノ一人又ハ數人其會社ヲ退去

セント欲スル事民法第千八百六十五條

本條ニ記列スル所ノ明瞭ナル故テ補説ヲ要セズト雖其解釋ノ確定シクル一二ノ條件ヲ報道スルハ亦無益ニアラカルヘシ

民法第千八百六十六條ニ於テ期限ノ定リシ會社ヲ更ニ延期セシメテハ始メ結社ノ契約ト同一ナル法式ノ証書ヲ要トストアルニ依リ會社ノ

定則ヲ以テ解散ノ期限ヲ定メタル時ハ必ス之ヲ
遵守セサルハオラズルナリ
又會社ノ延期証書ヲ有効ノモノト為スニハ各社
員ノ承諾ヲ要スルニ依リ各社員ノ承諾アル時ハ
期限前ト雖モ解散スルヲ得ヘキナリ
會社ノ資産全ノ滅盡セスト雖モ解散スルヲ得
例ハ資産ノ減少シタルカタメ會社ノ事業ヲ有
益ニ繼續スルヲ能ハサルニ至リシ時ハ閉鎖シテ
解散スルヲ得ヘシ
第二項ニ掲グル所ハ論理上自然ニ民法第千八百

六十七條ニ關係ス即チ該條ニ依レハ社員中ノ者
物件ノ入額所得權若クハ所有權ヲ供出セシメ
約シ其物件現ニ會社ニ供出セタル前ニ失フタル
件ハ會社ヲ解フヲ得然レモ物件ノ所有權ヲ既
ニ會社ニ供出シタル後ハ其物件ヲ失フト雖會社
ヲ解クヲ得ス(民法全上)
社員中ノ者死去スル時ハ別段相續人ヲノ繼續セ
シムルノ約定ナキニ於テハ當然會社ノ成立ヲ終
ルモノトス(民法第千八百六十八條)其約束ナキノ
場合ニ際シ法律上會社ト相續人ノ關係ヲ規定シ

テ曰

死者ノ相續人ハ死者死去ノ時ノ形状ニ從ヒ會社中ヨリ分派ヲ得ルノ權アルノミシテ死者ノ死前ニ為レタル事ヨリ全ク連續レタルモノ、外以後ノ利益ニ參加スルコトヲ得ス(民法第千八百六十八條)

然レ氏株式ヲ以テ成立レタル會社ニ付テハ社員中ノ一人ノ死去スル氏前說セル民法第千八百六十五條第三項ニ定メタルカ如ク會社ヲ解クコト能ハサルヘシ何トナレハ株式ヲ以テ成立レタル會

社ノ必要ナル目的ハ株金ニシテ人物ニアラサレハナリ但シ此事ニ付テハ後ニ細説スル所アラウニトス

會社ハ社員ノ治産金ヲ受ケ若シクハ家資分散ヲ為ニ因テ終ル蓋シ治産禁ヲ受ケタル者ハ契約ヲ結フノ權ヲ失フニ因リ結約權ナキ者ヲ以テ會社ヲ成立スル能ハス隨テ會社ヲ解クニ至ルナリ家資分散(デコンヒチユール)ナル語ハ寂モ汎博ノ意即チ無力ノ意ニ解スルヲ以テ單ニデコンヒチユールト稱スル民事上ノ無力ノコトヲ云フニ

アラス商法上ノ無力即チ「ファイ」上ノ「ヲ」モ含
蓄シタルモノトス但シ商法會社ノ種類ニ因テ其
通施ヲ異ニセサルベカラズ讓與自在ナル株式ヲ
以テ成立シタル會社ニ於テハ社員ノ治産禁家資
分散ハ勿論死去ニ遭遇スルトモ會社ヲ解散スヘ
キノ効ヲ生スルヲナシ

社員中ノ一人又ハ數人ノ意ヲ以テ恣ニ會社ヲ解
クヲ得ヌ法律ハ其場合ヲ限り會社繼續ノ期限ヲ
定メサル時ノミ然ルヲ得ヘキモノト爲シタリ
社員中壹人ノ意ニ因リ會社ヲ解クコトハ無期ノ會

社ニ限ル而シテ各社員ニ其會社ヲ退去セントス
ルコト告知シテ之ヲ爲スヘシ其退去セントス
ルコト正實ノ意ニ出テス又ハ時宜ニ適セサル
ハ其退去ヲ爲スヲ許サス(民法第千八百六十九

條)

各社員互ニ共同シテ得ント計リタル利益ヲ其
中ノ一人自己ノ一身ノミノ所得ト爲スヘキ為
メ會社ヲ退去セント欲スル時ハ正實ノ意ニ出
テサルモノトス

會社ノ事業未ク完成セシテ會社ノ爲メ猶ホ

之ヲ繼續スルコノ必要ナル時其會社ヲ退去セ
ントスルニ於テハ時宜ニ適セサルモノトス(民
法第千八百七十条)

人ノ進退自由ヲ悠久ニ束縛スルハ法律ノ忌ム所
タルヲ以テ本條ノ主義ヲ設ケテ則テ之ヲ防キタ
リ然レド本條ノ主義ハ人ヲ目的トナサ、ル株式
會社ニ通施スベカラズ蓋シ株式會社ニ於テハ常
ニ其株式ヲ讓與若クハ賣却ワテ退去スルコト自由
ナレバナリ

期限ノ定マリシ會社ヲ解ントスルニハ正當ノ

事由アルニ非サレハ其期限前ニ社員中ノ一人
ヨリ之ヲ要ムルヲ得ズ但シ其事由トハ他ノ社
員其契約ヲ履行セサルカ又ハ其一人常ニ病ニ
罹リ會社ノ事務ヲ行ヒ能ハサルカ其他此類ノ
事故アルノ莫ニシテ其事由ノ是非輕重ハ裁判
官ノ審判ニ任カス(民法第千八百七十一条)

會社解散ノ決算

會社一ツトヒ解散ニ決スレハ即チ其処分ヲ施シ會
社ノ資産ヲ採收シテ之ヲ社員ニ分派スルノ事ア
リ之ヲ決算(リキダーション)ト名ツケ之ヲ執行ス

ルノ任ヲ受ケタル者ヲ決算人(リキータウール)
ト名ク

遺物財産ノ分派並ニ分派ノ方法及ヒ其分派ニ
付キ相續人等ノ間ニ生スヘキ責ニ関シタル規
則ハ會社ヲ結ヒタル數社員ノ間ニ分派ヲ為ス
コトニモ亦通シテ用ユヘシ(民法第一千八百七十二
條)

然然レモ商法會社ニ於テ決算ノ事務ハタク之ガ
タメ特ニ任シクル決算人ニ委任ス其特ニ便宜ナ
ル本條ノ適行ニ依テ得ヘキ便宜ノ比ニアラサル

ヲ以テ本條ニ依據スルコト稀ナリトス然リ而
シテ決算人ノ選任員數及ヒ選任ノ時機ハ全ク會社
ノ自由ニ任セタリ

法ニ明文ナキヲ以テ選任ハ社員ノ最多數ニ依テ
為スヘキモノトスヘシ

決算人ノ權限ハ即テ決算ノ事務委任狀ヲ以テ定
ムヘシト雖モ元來決算人タル者ハ會社ノ名代人
ニシテ隨テ其權限モ太ク大ナラサルヲ得ナルコ
ト知ルヘシ蓋シ特別ノ阻限ナキニ於テハ會社ノ財
産ヲ賣拂ヒ訴訟ヲ和解シ仲裁ニ附シ原告若クハ

被告トナリテ裁判所ニ出ルヲ得ベシ是等ノ權
ハ決算ノ委任ト云フノ中ニ自ラ包含シタルモノ
ナレハ蓋シ之ヲ分拆ヲナシクルニ過キス然レ氏
委任状中ニ之ヲ明示スルハ太リ慎重ノコナリ
決算人ハ會社ノ名代人ヲリト雖モ他人ハ會社ノ
社員若クハ其代權人ニ對シ其權利ヲ訴フルヲ
得ヘレ但レ社員ノ總代タルヲ以テ先ツ決算人ニ
對シ訴フヘキモノトス
決算ノ事務ハ會社ノ資産ニ屬スル財産ノ分派ニ
因テ終ル會社ノ解散後各社員ハ互ニ其關係ヲ離

レ隨テ分派ニ係ル財産ヲ得ヘキノ權ヲ他人ニ讓
與スルヲ得ト雖モ之ニ因テ各社員其分ケ前ヲ互
ニ保證スヘキ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第十九條法律上ニテ商法會社ノ三種ヲ認ム

合名會社

差金會社

無名會社

是レナリ

商法會社ノ性質ヲ認定スルハ會社三種ノ名稱ニ
依ルニアラス又其特別ナル体裁ニ係ルニアラス

一ニ會社ノ舉行スル所ノ目的ニ是レ依ル既ニ前
説レタルカ如ク商法會社ト者做ナサニハ其營
業法律上商業ト者做ス所ノ事業ヲ目的ト為スヲ
要ス然ラサレハ止テ民法會社タルミ又會社ハ
法律上一個人ト者做ス乃チ商人ニアラサレ者ト
雖モ商業ヲ為スヲ得而シ其商業上ノ事ニ付テハ
商法上ノ成績ニ從フヘキニ依リ民法會社ニノ商
業ヲ為ス所ノモノモ亦然リトス

合名會社

第二十條 合名會社トハ二人以上ニテ互ニ契

約ヲ結ビ會社ノ名義ヲ以テ商業ヲ為スヲ目的
トス

會社ノ名義ハ總テ各社員ノ名ヲ以テシ或ハ一人
或ハ數人ノ名ヲ以テスト雖モ要スルニ會社ノ名
稱トシ之ヲ以テ事務ヲ行ヒ訴訟ノ原被告トナル
モノヲ云フ而シテ社員一人又ハ數人ノ名前ヲ以テ
スルハ其名前ノ下ニ及組合(エーコムパニー)ノ
語ヲ附ス然レハ其名前ヲ以テ契約シクル事ハ即
チ各社員ノ自ラ為シタルモノト同一ナリトス商
業店舖ノ名例ハ其品製造所ト會社ノ名ト混同

ス一カラス商業店舗ノ名ハ營業ノ一部ニシテ之
ト共ニ賣買スルヲ得ト且氏會社ノ名ハ會社ト共
ニ存廢シテ賣買スルヲ得ス

第二十一條社員ノ名ニアラサレハ會社ノ名義
ノ一部ト~~堪~~ス一カラス

會社ノ所為ニ付責任アル者ハ独り社員ノミナル
ヲ以テ他人ハ會社ノ名義ニ依リ其實ニ責任アル
者ノ名前ヲ知ルヲ要トス法章ノ命令スル文意
明瞭ナルヤ若シ他人ニ於テ其名前ヲ會社ノ名義
中ニ加ヘシメナハ縱令其社員タラストノ情状ヲ

公ニナシタル時ト雖モ惟タ名前ヲ貸シタルノ一
事ヲ以テ事アルハ社員ト等ク會社ノ負債ヲ保
結セサル一カラスモトス

第二十二條 合名會社ニ加ハリ其規程(ニ書)姓

名ヲ記入シタル各社員ハ其會社ノ結タル約束
ヲ連結シテ擔當スヘシ其社員中ノ一人ノミ手
署シタル約束ト雖會社ノ名前ニテ為レタルモ
ノハ仍ホ各員皆連結シテ之ヲ擔當スヘシ
此條規ハ民法會社ト合名商法會社トノ判然タル
差別ヲ定メタルモノトス蓋シ民法會社ニ於テハ

別段ナル許諾ヲ受クルニアラハレハ社員中ノ一人ニテ他ノ社員ニ責ヲ負ハシムルヲ得サルナリ之ニ及レテ商法^{會社}於ル社員ノ此連結ノ責任ハ會社^{一切}ノ責ニ適用スヘクシテ社員タル者會社ノ規程中ニ之ニ及レリル個條ヲ掲クルヲアルハ他人ニ數シテハ無効ニシテ其^責免ラル、^責ヲ得ス但其社員相互ノ間ニ於テ其箇條ヲ主張スルヲ得ヘキノミ

然レモ社員ノ連結ハ會社ノ約束履行ノ次第ヲ量察シテ事物相當ノ道理ニ協フタル意味ニ了解セ

サルヘカラス例ヘハ會社ノ債主社員中ノ一人ヲ相手取り訴フルヲ得ス必ス會社ヲ相手取り訴ヘサルヘカラス又得ル裁決ヲ執行スルニ就テモ若シ會社無力ニシテ完全債主ニ償還ヲ為ス不能ハサル中ハ社員ニ連結ノ責任アルノ主義ナリト虽モ善ク之ニ勸告ヲ加工適當ノ謙讓ヲ為サ、ルヘカラス

第二十二條ノ連結ハ一個ノ罰則ト看做スヘキヲ以テ必ス該人限り施行スヘキモノニシテ其相續人及ヒ代權人ニ及ホスヘカラス但シ商人ノ身体ニ

付商法ノ嚴ナル所ノ一点ニ付云フモノトス故ニ
死去シタル社員ノ遺物相續人ハ會社ノ契約ニ付
連結ノ責任ハ負フヘシト雖モ其身体ハ催徴拘留
法ニ亦セラル、第一卷ニ示スオカ勿ルヘシ今日拘留法廢止トナ
リタルハ本項
ハ無用ニ属ス
若シ社員二人以上ニテ約束ヲ取結ヒ手署シタル
ハ縦令會社ノ名義ヲ以テ手署シタルモノニア
ラズ凡總社負連結シテ其約束ヲ受クヘシ
會社ノ名義タル者ヲ託サズ社員一人ニテ約ヒク
ル約束ヲ以テ會社ノ約束ト為スヘキヤ否ハ其之

ヲ結ヒタル處ノ情狀ヲ勘査シテ定ムヘシ
會社ノ名義ヲ以テ手署スルヲニ付テハ社員中若
千人ヲ限リテ之ヲ隨意ニ為サシムルヲ許スリ
然ルハ第二十二條ヲ推シ各社員ニ属スル所ノ
各社員會社ノ名義ニテ約束スルニ汚ル一般ノ權
利ヲ私約ヲ以テ制限スルニ至ルニ因テ一面以テ
他人ヲメ會社ト結約スル為ニハ何レノ社員ニ依
ルヘキヲ知ラシメ又一面以テ會社自ラ其權ヲ許
サ、ル他人ヨリ約束ヲ受ケサル為メ極テ之ヲ公
ニセサルヘカラス蓋シ期ノ會社ノ名義ヲ以テ手

署スヘキ社員ノ數ヲ限ルノ權ハ第四十三條ニ於
テ會社規程ノ按書ニ會社ノタメ手署スルヲ許
サレタル社員ノ姓名ヲ載ス云々トアルニ依テ自
ラ生スルモノトス

會社ノ名義ヲ以テ手署スルノ任アル一人又ハ
數人ノ社員ハ即チ會社ノ支配人タルナリ而シテ實
際多クハ會社規程ヲ以テ支配人ノ數及管理ノ方
法權限ヲ規定ス若シ規程中共定則ナキ時ニ當テ
ハ管理ノ權ハ各社員皆等シク之ヲ有スルモノト
思料シ前ニ掲グル民法第千八百五十九條ノ規例

ヲ適用スヘシ

管理人若クハ支配人管理上正當ニ要用ト為ス事
件ノ外決シテ會社ノ名義ヲ以テ結約スルヲ得ヘ
カラス何トナレハ管理人支配人ハ單ニ其職任ノ
ミニテハ例ヘハ會社ノ建造物ノ全部若クハ重要
ナル一部ヲ賣拂ヒ其不動産ヲ書入質ト為ス才如
キノ權カノナキヲハ吾人ノ良知スル所ナレハ也
然レモ支配人ハ會社ノタメ訴訟ヲ起シ之ニ答弁
シ管理上ニ管スル事件ノ訴訟ヲ和解シ仲裁ニ附
スルヲ得ヘシ但シ管理外ノ事件ニ係ル訴訟ニ

付テハ會社ヨリ臨時特別ノ委任ヲ受ルニテラサ
レハ之ヲ處置スルヲ得ス

支配人其管理ノ事ニ付テハ詐偽騙瞞等不正ノ事
アルニアラサレハ他ノ社員ヨリ故障ヲ述ヘ其處
置ヲ妨クルヲ得ス(民法第千八百五十六條)

若シ其正否ノ分析ニ付爭論ノ生シタルハ裁判
所ニ於テ之ヲ判断スヘキモノトス而シテ詐偽騙瞞
ノ成績アル時支配人ハ會社ニ向テ其責ニ任スヘ
キノミナラズ重要ノ過誤アル時モ仍ホ然リトシ
支配人ニ於テ同社員ノ述ヘタル故障ヲ斟酌シテ

其處置上ニ注意ヲ加ヘクルヲ多クシテ從テ其責
任ニ輕重アルヘシ然レモ若シ他ノ社員ニ於テ恣
ニ無益ノ拒障ヲ述ヘ管理人所分ヲ是非スルヲ
得ルモノトセハ遂ニ眞ノ管理ヲ為不能ハナルニ
至ルヲ以テ裁判處ハ亦支配人ノ自由ナル舉動ヲ
之斷字トシテ保護スヘキナリ

會社規程ノ一條ヲ以テ社員中ノ一人又ハ數人
ヲ管理ヲ委任シタル時ハ其委任タルヤ正當ノ事
故アルニアラサレハ支配人ノタメニモ會社ノタ
メニモ排却スヘカラサルモノニシテ當ニ會社定

則ノ一部分タルヲ以テ亦之ト等シノ不動不変ノ
性質ヲ有ス然レモ若シ會社創立以後別段ノ証狀
ヲ以テ委任シタルハ隨意ニ之ヲ排却スルヲ得ル
民法第千四百條ニ言フ所ノ各代人ヲ任シタル者
ハ其隨意ニ各代人ヲ退クルヲ得ルニ同シ
民法第千八百五十六條委任ヲ排却シ得ヘキ事故
ノ正當ナルヤ否ハ會社ノ現在及ヒ將來ノ利益ヲ
妨害スヘキ者ト視ユル所ノ支配人ノ處置ニ係ル
事項及ヒ其憑証ヲ查察シ裁判所ニ於テ之ヲ判別
スヘシ
縱ヒ會社ノ規程ヲ以テ任シタル支配人ニシテ之

ヲ退クルコトアルモ會社ノ完全タル存止ニ關スル
コトハ會社ニ對シ其退職ノ成績ハ其退職ヲ未タ
シタル情狀ニ從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ處置スヘシ
會社ノ規程ヲ以テ會社ノ利害ニ關スル事件會議
ノ方法及ヒ其會議ノ所決ニ必行ノ力ヲ與フルノ
必要ナル發言ノ數ヲ指定スルコト一般ナリ若シ
之ヲ指定スルコトナキ時社員相互ノ關係ハ民法第
千八百五十五條ニ依テ究處ス但シ管理ニ關スル事
件ノタメノミトス而シテ該條ニ依レハ各社員皆
同等ノ權ヲ有シ豫メ他員ノ承諾ヲ得ルヲ要セス

總社員ノ名義ヲ以テ結約スルヲ得ル然レモ他
ノ社員ハ各自若クハ合同シテ事成就ニ至ラサル
前ニ於テハ拒障ヲ述ヘテ其所為ヲ制スルヲ得然
而シテ拒障社員ノ多數ヲ述フル所タル時ハ少數
ノ者之ニ從ヒ之ニ相及シタル場合ニ於テハ依然
所為ヲ繼續シ相^半ハスル所ハ其所為ヲ放止スヘシ
同名會社ニ於テハ各社員ノ責任無限ナルヲ以テ
會議ニ於テモ同等ノ權ヲ有スヘキノ理アルニ因
リ決議ハ必ス各人ノ一致ヲ以テ之ヲ為ス當ニ管
理ノ事ニ付然ルノミナラス會社ノ規程ノ更替ニ

付テモ亦多數ヲ以テスルヲ得ス總社員ノ一致ヲ
要シ一人ノ拒障ハ衆多ノ意思ヲ排斥スルニ足レ
然レモ多數ノ同意アル所ハ會社ノ資産ノ全部ヲ
賣拂フコトヲ得ルヲ以テ到底多數ハ必勝ノモノト
云フヘシ
會社ノ規程中ニ又對テ條規アル時ノ外合名會社
ノ社員中ノ一人ハ同社員ノ許諾ナク其權利及ヒ
責任ヲ餘人ニ讓與移轉スルコトヲ得ス然レモ其讓
與ヲ為シタル者ニ受テタル者トノ間ニ於テハ其
讓與ノ効ヲ有スヘシ何トナレハ讓與者ハ會社ニ

數レ一切ノ責任ヲ擔當レテ止ムヲナキニ於テハ
隨意ニ會社ニ於ル自己ノ權利ヲ讓與スルヲ得レ
ハナリ

第三十九條合名會社又ハ差金會社ハ公ケノ證
書又ハ私ノ證書ヲ以テ之ヲ證スレ但シ私ノ
證書ヲ以テスルハ民法第一千三百二十五條ニ
循フヘシ

該條ニ曰

双務ノ契約ヲ記シタル私ノ證書ハ各自ノ利益
ヲ有スル者ノ數ニ準シ其正本數通ヲ記シタル

ニ非ナレハ其効ナシ

同一ノ利益ヲ有スル數人ノ為メニハ一通ノ正本
ヲ以テ足リトス正本各通ニハ之ヲ幾通ニ記シタ
ルヤヲ附記スヘシ

然レハ正本ヲ幾通ニ記シタルヤヲ附記スルヲナ
シト雖其證書中ニ記シタル契約ヲ履行シタル者
ハ後日其附記ナキトテ之ニ其證書ヲ取消スルヲ
得ス

第四十二條ニ於テ合名會社ノ定則ノ抜書ヲ商法
裁判所ノ書記局ニ出スヘシ若シ之ヲ出サ、ルハ

ハ之ニ管シタル者ノ、タノ無効ト為ストノ條規
ハ當ニ第三十九条ニ應照シ公正ノ證書又ハ私記
ノ證書ヲ以テ成立ヲ證セサル合名會社ハ無効リ
ルヲ疑ヲ容レズ

第四十一条 會社ニ管シタル訴ニ付テハ縱令百
五十ヲラン以下ノ金高ニ管シタル時ト雖モ
會社ノ定則ニ記シタル所ト相及シタル事又ハ
之ニ記シタルヨリ以外ノ事又ハ其契約書ヲ記
スル前後或ハ之ヲ記スル時ニ當リ言説シタリ
ト云フヲニ付キ証人ヲ以テ証ヲ立ツルヲ許

サス

第四十二条 合名會社又ハ差金會社ノ定則ヲ記
シタルヨリ十五日内ニ其會社ノ鋪店ヲ設リヘ
キ地ニ在ル商法裁判所ノ書記局ニ其抜書ヲ差
出シテ之ヲ其書記局ノ簿冊ニ登記シ且ツ三月
間訟庭ニ貼附シ置クヘシ
若シ會社ノ鋪店ヲ數箇所ニ設ケ商法裁判所ノ
管轄各々相異ナル時ハ其各裁判所ノ書記局ニ
同上ノ抜書ヲ差出し其登記ヲ為シテ且其訟庭
ニ貼附スヘシ

毎年第一月ノ初ノ十五日内ニ商法裁判所ヨ
リ合名會社又ハ合資會社ニ其管轄地内ノ首府
又其首府ヲラサル時ハ最近ノ都府ニテ刊行ス
ル新聞紙ニ其會社ノ規程ヲ記シタルヨリ十五
日内ニ其抜書ヲ記入スヘキヲ言渡シ且其印
刷ノ費用高ク定ムヘシ
其新聞紙ニ記入ヲ為シタルハ刷工ノ證印ヲ
為シ邑長ノ確的ノモノタルヲ認メ新聞紙一
葉ヲ以テ之ヲ證スヘシ但シ其新聞紙ニ記入シ
タル所ハ三月内ニ官署ノ簿冊ニ登記スヘシ

此等ノ法式ヲ行ハサルハ社員相互ニ對シテ
ハ無効トス然レモ社員ヨリ他人ニ對シテハ其
法式ヲ行ハサル者ヲ述ヘ其權利ヲ害ス一カラス
斯ノ如クナルヲ以テ公眾ニ於テ新立會社ノ性質
及ヒ保障ヲ祥知スルヲ得隨テ其會社ニ對スル商
業上ノ取引ニ付適當ノ注意ヲ為テ得テ不慮ノ損
失ヲ被ルコトナシ
千八百六十七年七月廿四日ノ法ヲ以テ右四十二
條ヨリ第四十六條ニ至ル迄ヲ廢シ之ニ代ユルニ
同上ノ法ヲ以テレタリト雖モ到底會社ノ設立ヲ

ル時其性質及ヒ責任ノ程限等要スルニ會社創立ノ定款ヲ公衆ニ告知セシムルノ手續ヲ更正レノルニ過キテ不法ノ精神ニ關スルナキヲ以テ爰ニ略シ本書ノ卷末ニ該法ノ全部ヲ附録スヘシ

第四十三條 會社規程ノ校書ニハ左ノ件ヲ記スヘシ

株主又ハ差金主ニ非ラサル社人各人ノ姓名身分居所

會社ノ名義

社員中ニテ會社ノ事務ヲ支配シ會社ノ為メ

總テノ證書ノ姓名ヲ手書スヘキ任ヲ受ケテル者ノ姓名等ノ記載

株式又ハ差金ニテ既ニ差入レ又ハ差入ルヘキ金高

會社ヲ開ク期日並ニ會社ノ終ルヘキ期日

第四十四條 會社ノ規程公正ノ書タル時ハ證書人其校書ニ姓名ノ手署シ私記ノ書タル時ハ合名會社ニ付テハ各社員中之ニ手署シ差金會社ニ付テハ資本金ヲ株式ニ分テタルト否トヲ問ハズ連結ノ各社員之ニ手署スヘシ

前第四十二條第四十三條第四十四條ニ記列シメ
ル諸件ハ太ク緊要ノ者トス何トナレハ之ニ違背
スル所ノ會社定則ハ無効タルヘキヲ以テナリ而
シテ此無効タルハ會社ノ債主若クハ社員等凡
會社ニ管シタル者之ヲ聲言スルヲ得ヘシ
無効ト宣告セラルル會社ノ社員相互ノ關係ニ
就テハ會社ノ證書無効取消ナリシ時ト雖ハ社員
相互ノ損益等定ノ憑證ト為レ得ヘキヲ以テ裁判
所ニ於テ即チ之ヲ参照シ事實ヲ審ニシ情義ヲ案
シテ之ヲ處スヘシ

第四十六條嘗テ定メ置クル會社ノ期限終リク
ル後猶ホ會社ヲ繼續セントスルニハ各社員ヨリ
其旨ヲ商法裁判^所 屆書ヲ以テ其繼續ヲ事ヲ證
スヘシ

此屆書及ヒ會社ノ預定期限ニ至ラサル前ニ會
社ヲ解カントスル證書社員ノ變更又ハ退去ノ
證書想テ新ニ結ビタル契約書會社ノ名義ヲ更
改スル證書ハ第四十二條第四十三條第四十四
條ニ定メタル法式ニ循フヘシ
此法式ヲ行ハサル時ハ第四十二條中寂終ノ一

項ノ罰則ヲ適施スヘシ
會社ノ證書ノ披達公告ノ事ニ付第四十二條ヨリ
第四十四條ニ至ル迄ニ列記シタル諸件ニ変更ヨ
生スル時ハ亦之ヲ公告セシメ且其罰条ヲ該犯一
般ニ適用スルハ寂~~ニ~~至當ノト了スヘシ
會社ノ員相互及ヒ會社ニ係ル爭論ハ悉皆仲裁人
ノ判断ニ任スヘキト定メ商法第五十一條ヨリ
第六十三條ニ至ル迄ニ仲裁人判断ノコトヲ規定シ
タリト雖モ千八百五十六年七月十七日ノ法ヲ以
テ必ス仲裁人ノ判断ニ附スヘキノ條規ヲ廢シ商

法裁判所ノ審權ニ附シタリ
合名會社ハ其定則ニ始終ノ期限ヲ定ムヘキヲ要
シ若シ其定ノナキ時ハ無効トス第四十三條其定
メタル期限ノ外ニ於テ解散スルヲ得ヘキ場合ヲ
モ併テ之ヲ記載スヘキナリ然ラサレハ前説シタ
ル民法第千八百六十五條ニ依ルモノトス
合名會社~~開解~~ニ至ル時ハ決等ノ事務ヲ生ス而シテ
會社ノ定則若シハ以後特別ノ證書ヲ以テ決等ノ
ヲ任シタルコトアルヘシ然而シテ定則ヲ以テ任シ

ソルハ詐偽騙購ノヲアルニ非ラサレハ之ヲ退
ソヘカラス特別ノ証書ヲ以テ任レタル時ハ何ノ
時ヲ問ハス退クルヲ得故ニ委任状中ニ其如何
ヲ明記スルヲ要ス若シ其明記ナキ時ハ前説レ
タル民法第千八百七十二條ニ依ル

第六十四條 決算人ヲ除クノ外總テ社員及ヒ
其寡婦相續人又ハ代權人ニ數スル詞訟ハ其會
社ノ期限ノ終リタル時又ハ之ヲ解キタル時ヨ
リ五年ヲ以テ其期滿得免ノ期限ナリトス但シ
之カ為メニハ會社ノ期限ヲ記レタル會社創立

ノ證書又ハ會社解散ノ證書ヲ第四十二條第四
十三條第四十四條第四十六條ニ循ヒ貼附シテ
之ヲ官署ノ簿冊ニ登記スルヲ必要トシ且此
等ノ法式ヲ行ヒタル後ニ裁判上期滿得免ノ期
限ヲ停止スヘキ處分ヲ為サ、ルヲ必要トス
五年ノ期滿得免ハ次算人ノタメニモ亦社員タル
ノ場合ヲ以テ之ニ充ト雖モ其決算人ノルノ場合
ニ於テハ通常法ニ依リ三十年ノ期滿得免法ニ從
ハシム社算相互ノ間ニ於テモ亦三十年ノ期ニ依
ラシム

差金會社

第二十三條 差金會社トハ連結シテ責任ヲ負
擔スヘキ一人又ハ數人ト元金ヲ差加フル一人
又數人ト互ニ取結ヒル會社ナリトス其元金
ヲ差加ヘタル者ヲ名^ク差金人ト云フ

此會社ノ事務ハ會社ノ名義ニテ管理シ其名義
ハ連帶シテ責任ヲ負擔スヘキ一人又ハ數人ノ
姓名ヲ用ユヘキモノトス

各社員皆連帶ノ責ニ任スヘキ所ノ合名會社ハ商
法上ニ於テ正則トシ差金會社ハ一ノ變則トス蓋

シ差金會社ハ二様ノ性質ヲ備フ第一已レノ名ヲ
以テ會社ノ名ト為ス所ノ社員ノ一人若クハ數人
ノタメニハ連結無限ノ保責アリテ此一点ニ付テ
ハ恰モ合名會社ノ如シ第二資金ヲ出シタルマテ
ノ者ノタメニハ各別有限ノ保責アルノミトス而
シテ此會社ハ僅カ二人ノ間ニ於テモ其一人其名
ヲ以テ會社ノ名トシテ一切ノ責ニ任シ他ノ一人
ハ會社ニ投金シタルマテニシテ其投金高限リ外
保償ノ責ニ任ナサルニ於テ即チ成立スルヲ得

前第二十三條ニ於テ差金會社ノ特別ノ性質ヲ解
釋スト呈ル事實差金會社ト認定セシカタノニハ
必アル物件ヲ共通シ損益ヲ分割スルヲ要ス然ラ
ナレハ會社ノ契約アリト雖貸借ノ契約ニ過キサ
ルモノトス審廳ニ於テ契約ノ條項ヲ審査シ其差
金會社ノ性質ニ必要ナル元素ノ有無ヲ部判スヘシ
商人ニアラサル差金人ハ其會社ニ資金ヲ出シテ
ルノ一事ヲ以テ商人ト看做スヲナシ故ニ催徴拘
留法ニ從ハシムルヲナシ果シテ然ラストセハ商
業ノ振興ニ宜ミ活潑有勢ナル利番ノ一ナル差金

會社ニ常人ノ有ニ係ル資金ヲ融通活働セシムル
ノ道ヲ梗塞スヘシ

第二十四條連結シテ責任ヲ擔當スヘキ者數人
アル中ハ其數人皆會社ノ事務ヲ管理スルト其
中ノ一人會社ノ事務ヲ管理スルト又問ハス此
等ノ者ノツノニ合名會社ト看做シ金高ヲ差
加エタル數久ノ為ニハ差金會社ト看做スヘシ
本條ハ前二十三條ノ差金會社ノ義解ヲ補充シ數
種ノ元素ヲ一層明示セリ故ニ各社員ノ責任ヲソ
其出金高ニ限ラシカタノ管理人差金人ノ集合及

ト連結ノ元素ヲ滅却スルヲ許サズ少クモ一人無
限ノ責任ヲ負フ者アルヲ要トス
差金人ハ正當ノ事故アル時ハ管理^人ノ其職ヲ退
カシムルヲ得管理^人ノ權限ニ至ラハ合名會社ノ管
理人ニ於ケルト同一ナリトス
管理人ノ退職免職死去ハ毫モ會社ノ存立ニ管ス
ル所ナシトス而シテ差金人其代人ヲ任スルモ之
ヲ以テ管理ノ事務ヲ行フタル者ト看做スヘカラス
第二十五條差金人ノ姓名ハ會社ノ名義ノ一部
分ト為スヘカラス

差金人ニシテ其名ヲ以テ會社ノ名義ト為サシム
ル者ハ有限責任ノ利ヲ失ヒ恰モ合名社員タルカ
如ク連結無限ノ責任ヲ負フヘキモノトス
第二十六條會社ノ為メ幾許ノ損失アリト雖モ
差金人ハ其差加ヘタル金高又ハ差加フヘキ金
高ニ至ル迄ノ外其損失ヲ擔當スルニ及ハス
是ニ同テ差金人ノ出金ト會社ノ決算未濟前ニ之
ヲ取返スルヲ得スト論定セサルヘカラス蓋シ其
出金ハ會社ノ債主ノ抵當ト看做スヘキヲ以テ例
ヘハ差金人其其出金ノ全部ヲ支出セサル前會社

解散ニ至リ債主ノ償還ヲ終ルタノ其殘金ノ支出
ヲ要スルハ債主ニ於テ當ニ管理人ニ向テ其催
促ヲ為シ得ルノミナラス其差金人ニ向テ直ニ催
促ヲ為スノ權アルヘシ

第二十七條差金人ハ會社ノ事務ヲ管理スヘキ
委任ヲ受クル小虽モ管理ノ所為ヲ為スヲ得ス
(千八百六十三年改正)

差金人ニ於テ會社ノ管理ニ于涉スルハ忽チ前
二十六條ノ利益ヲ失ヒ連結無限ノ責ヲ負フヘシ
而シテ差金人ノ所為管理上ノ処置ナリト聲言スル

者果ノ其性質アルヤ否ハ審廳ニ於テ鑑定スヘシ

第二十八條 (千八百六十三年五月六日左ノ如
ク改正) 若シ差金人前條ノ禁ヲ犯シタルハ其
管理ノ所為ニ因テ會社ノ為ニ生シタル負債及
ヒ約束ヲ合名社員即チ連結シテ義務ト共ニ連
結シテ擔當スヘシ又其差金人ハ其所為ノ多少
ト輕重トニ准シ會社ノ約束ノ全部又ハ一部ノ
ミテ合名社員ト共ニ連結シテ擔當スヘキ言渡
ヲ受クルヲアルヘシ
差金人會社ノ事務ニ付助言検査及ヒ監督ヲ行

ヒタルノミニテハ會社ノ約束ヲ連結シテ擔當
スルニ及ハス

第二十七條ノ禁ヲ犯シタル差金人懲罰ノタメ負
ハレムル所ノ連結無限ノ責任ハ時ニ會社ノ債主
ノタメ之ヲ負ハレム合名社員ノ為メ之ヲ負ハレ
ムルコトナシ蓋シ法律ハ會社ノ負債及ヒ約束即チ
他人ノ利益ノコトノミヲ言ヘハナリ然レモ斯ノ制
限ニタル犯者ノ責任ハ其所犯ノ前若ノハ後ノ負
債ニ限ルノ別ナキニ同リ其前後ニ拘ラス一切ノ
負債ニ及フヘキヲ以テ又嚴ナリト云フヘシ

第三十八條差金會社ノ資本金モ亦之ヲ數個ノ
株式ニ分ツコトヲ得ヘシ但レ之ニ因テ此類ノ會
社ノ為メ別段定メタル規則ニ背クコトナラレ
本條ハ一ノ主義ヲ指出スルヲ以テ千八百五十六
年七月十七日ノ法律ヲ以テ嚴重ナル細則ヲ定メ
曰ク

差金會社ノ資本金二十万ヲラレ以下ナル時ハ
其株式若クハ其切株一株式分者ヲ百ヲラレ以
下資本金二十万以上ナル時ハ五百ヲラレ以下
ニ細分スルコトヲ得ス

差金會社ハ其資本金高ヲ悉皆募集シ各株主ノ
申込高ノ少クハ四分一ヲ現出シタル後ニアラ
サレハ成立ヲ確定ス一カラス此募集ノ金高及
ヒ現出金ノ高ハ公証人ノ記成シタル管理人ノ
申告書ヲ以テ之ヲ証シ之ニ副ユルニ出金申込
人ノ記其現出金ノ高及ヒ會社ノ規程ヲ以テス
一レ(同上第一條)

故ニ差金會社ノ成立ヲ知ル合法確定ノ時期ハ即
チ其資本金ノ募集成リテ少クハ各株式ノ四分一
ヲ現收シタル日トス而シテ此日ハ管理人ノ申告

ヲ證スル公正ノ證書ノ日附ニ依テ知ル一レ

差金會社ノ株式ハ其出金ヲ完了ニ至ル迄ハ記

名ノミノトス(同上第二條)

之ニ因テ判例及論說ニ於テ差金會社ノ株式ハ記
名ナルヤ無記名ナルヤノ紛々疑義氷解シ出金完
了ニ至ル迄ハ記名ナルヲ以テ株主ニ於テ其株金
ノ完納スル迄ハ當然其株式ニ付テノ責ヲ負フヘ
キモノトス

差金會社ノ株式申込人ハ縱令如何ナル契約ア
ルモ其申込タル株金高ニ付テハ擔當ノ責ニ任

下下下

スヘシ

株式及其切株、其金額五分二以上現出シタル
 後ニアラサレハ賣買ヲ為スヘカラス(同上第三條)
 申込人ノ負擔スヘキ責任至嚴ナリト虽氏其株式
 ヲ正當ニ他人ニ賣讓スルヲ禁スルヲナシ蓋シ到
 底其責任ヲ讓與スルヲ能ハサレハナリ然而ソ其
 賣讓ハ株金ノ五分二以上ヲ現出シタル後ニアラ
 サレハ之ヲ為シ始ムルヲ得スト雖其株金ヲ完
 納スレハ忽チ記名ノ株式タルヲ無記名ノ株式ト
 ナスヲ得

資本金ヲ株式ニ分テタル差金會社ノ社員中ニ
 アリ貨幣ニアラサル他ノ物件ヲ供出スル者アル
 カ又ハ會社ノ特別ノ利益ヲ約定スル者アル
 ルハ株式主ノ總會議ニ於テ其價值ヲ査定シ其
 後會ニ於テ之ヲ認可シタル上ニアラサレハ會
 社ノ成立ヲ確定スヘカラス
 會議ハ出席株主ノ多数ニ決シ其多数中ニ總株
 主ノ四分一以上ト現貨幣資本金額ノ四分一以
 上ノ代議者アルヲ要ス
 總會議ノ監定ニ附レタル物件ヲ供出シ又ハ利

益ヲ約定シタル所ノ社員ハ會議ニ加ハルヲ得ス(同上第四條)

株式悉ク申込ミアリテ其金高ノ四分一以上現狀
シタル上ニアラサレハ會社ノ成立確定セズ且社
員ノ供出スル勞力其他ノ物件モ其資本金高ノ一
部分タルヲ以テ豫メ其價值ヲ定メナル一カニシ
株式アル差金會社ニハ觀察會ヲ設テ株主五人
以上ヲ以テ會實トナスヘシ

此會實ハ會社ノ成立確定ノ後ニシテ會社ノ事
務ヲ行ヒ始メナル前ニ株主ノ總會議ニテ選任

スヘシ而シテ少クモ五年毎ニ改選スヘシ但シ

最初ハ一年限リニ選任スヘシ(同上第五條)

選任ノ方法ハ第四條ニ掲グル會議ノ方法ニ依ル
出席ノ株主ノ多數ヲ以テ決シ其多數中ニハ株主
及ヒ資本金ノ四分一ノ名代人アルヲ要ス

前數條ノ規則ニ違反シテ成立シタル株式アル差
金會社ハ之ニ管シタル者ノタメ無効トス但シ
社員ヨリ社外人ニ對シテ此取消ノコトヲ申立ルヲ

聽ナス(同上第六條)

前條ニ循ヒ會社取消トナシタル中觀察會ノ員

ハ其選任以前行フタル一切事務ニ付支配人ト
連結シテ其責ニ任スルキノ宣告ヲ為スヲ得
物件ヲ供出し又ハ會社ノタメ特別ノ利益ヲ約
定シタル會社ノ發起人ニ對シテ同上連結ノ責
任ノ宣告ヲ為スヲ得(同上第七條)

是ニ因テ觀察會ハ支配人ノ職權ヲ完全ニ置キ高
ク其不羈ヲ牽制セズ又其責任ヲ節限スルコトナシ
觀察會ハ支配人ノ所為ヲ監督シ會社ノ利益ヲ保
護シ會社ノ成立ヲシテ合法不合法トシムル為メ
ノ諸法式ヲ履行セシムル為メ之ヲ設置ス而シテ

其設置ハ會社成立後ニシテ未タ其事務ヲ行ヒ始
メタル前ニアルヲ以テ支配人ノ所為ハ悉皆其監
督スル所ニ係ル之ニ違背スルモ共同連結ノ責ヲ
免ルヘカラス故ニ觀察會ハ前記シタル法律第一
條ヨリ第五條ニ至ル諸條ヲ遵奉シ會社ノ規程ノ
之ニ及スル所ナキヤ否ヤヲ保障セサルヘカラス
是レ法律ノ該會ニ命ジル責任ノ一斑トシ猶ホ
其責任ヲ奉行スルニ當テ管理ノコトニ干渉センコ
ト嫌疑ヲ避ケンカクモ其方法ヲ詳悉セリ
觀察會ノ員ハ會社ノ帳簿金櫃諸券等ヲ検査シ

毎年支配人ノ調製シタル目録及配當金ノ申告
ニ付總會議ニ向テ報告ヲナスル
監察會ハ總會議ヲ召集シ且會社ノ解散ヲ要ス
ルヲ得同上第九條

左ノ場合ニ於テ觀察會員ハ支配人ト共同連結
シテ其責ヲ負フ一キモノトス

一情ヲ知テ資産目録中會社若クハ社外人ノ
損害トナルハ重大ナル不精ノ事ヲ記載セシ
メタル時

二情ヲ知テ正實ノ目録ニ證明セサル配當金

ノ分賦ヲ為サレタル時(同上第十條)

既ニ前記レタル如ク觀察會ハ會社ノ行事ヲ管掌
スルニアラス之ヲ監督スルノ職務アリ然リ而シテ
之ニ依違スル所ノ會員ニ負ハレムルニ至嚴ナル
責任ヲ以テスルニ因リ當ニ諸人ノ利益ヲ充分ニ
保障スルニ足ルヘシ

此法律ノ第一條第二條ニ及レテ成立シタル會
社ノ株式又ハ切株ヲ發行シタル者ハ八日以上
六月以下ノ禁錮ニ處シ五百ヲラレ以上一ヲ
ラレ以下ノ罰金ヲ併科シ或ハ二罰中ノ一ヲ科ス

視察會ノ其職務ヲ行ヒ始メサル前ニ會社ノ事務ヲ行ヒ始メタル所ノ支配人モ亦同シ(同上第十一条)

此法律ノ第一条第二条ニ及シタル價格若クハ体裁ノ株式ヲ賣讓シタル者ハ五百円以上一万円以下ノ罰金ヲ科ス此賣買ニ參與シ其株式價值ノ公告ヲナシタル者亦同シ(同上第十二条)

左ノ者ハ刑法第四百五条ニ宛處ス但シ詐偽取賤ノ罪ヲ以テ論スヘキモノト相觸ル、
ナシ

一株金申込若クハ現在出金ノコトヲ偽リ又ハ故意ヲ以テ無実ノ申込若クハ出金ヲ公告_レ又ハ其他詐偽ノ所為ヲ以テ株金ヲ募集_シ若クハ募集セント謀_リシ者
二株金募集若クハ現出金ヲ教唆スル_テ故意ヲ以テ事實ト相違_テ人ヲ指シ如何ナル名義ヲ問ハス會社中ニ加入シ若クハ加入ス_ル者ヲ以テ其名稱ヲ公告_シ三資産目録欽失_レタル_中若クハ詐偽ノ目録ヲ以テ事實會社ニ取得シタル_{コト}ヲ配當金ノ配分ヲ株主中ニ為シタル支配人

但シ本条ニ掲グル諸件ニ付テハ刑法第四百六十三條

ヲ遵施スルヲ得(同上第十三条)

株式アル差入主會社株主合同ノ原告若クハ被告トナリ
共同ノ利益ノタメ支配人若クハ觀審會ノ員ニ向テ詞訟
ヲ保持セントスル時ハ總會議ニ於テ選任シタル理事
人ヲ以テ其名代トナスヘシ株主中ノ若干人ニ原告若
クハ被告トシテ詞訟ニ管シタル時ハ其詞訟ニ管シタル株主ノ
特別會議ニ於テ理事人ヲ撰任スヘシ
事故アリテ總會議若クハ特別會議ニテ理事人ノ選任ヲ
妨クルハ宥モ先キ着手シタル者ノ願請ニ依リ高
法裁判ニテ之ヲ撰任スヘシ

理事人ヲ選任シタリト雖ハ各株主ニ於テ自ラ
詞訟ニ関涉スルノ權アリ但其関涉ヨリ生スル費
用ヲ擔當スヘキモノトス(同上第十四條)
立法者前条ヲ掲ケタル目的ハ寔ニ駁撃スヘカウ
サルノ効益ナリトス蓋シ之ニ依テ利害ヲ同クス
ル太ク多数ナルコトアルニキ株主皆悉ク同一ノ詞
訟ニ関與スルトセハ其費用大ニ崇ムヘキヲ以テ
之ヲ避ケント欲シタリ然而、特別ノ理事人ヲ任
スル中ハ詞訟ノ手續ヲ簡ニシ濟方ヲ速ニシ隨テ
費用ヲ節減スヘシ然レモ若シ自ラ分離シテ其詞

詞訟ニ参興セント欲スル者ニハ各其権ヲ保持シ
夕リ同上ノ法律第百五條ハ該法頒布ノ時現ニ存
規則ニ立レタル會社モ亦本法ニ從フト云フノ附
セナルヲ以テ署之 差金會社ノ創立ハ公正ノ
証書若クハ私記ノ証書ヲ以テ之ヲ証スヘシ
合名會社ノ部ニ記シタル商法第百三十九條第百四十
一條第百四十二條第百四十三條第百四十四條第百四十六
條第百四十四條ハ差金會社ニモ之ヲ適施ス 爰ニ再
合名會社ノ部ニ
就テ觀ルヘシ
而シ此諸條ニ掲クハ所ノ取消ハ之ヲ去治ルヨド
ツリ上ヨリ要スルモノナレハ之ニ伸縮ヲ加フル

ルヲ得ナルモノト知ルヘシ但シ第百四十六條ニ於
テ社員ノ変更若クハ退去ヲ公告スルヲ要トシ違
フ者ハ無効ト為スノ條規ハ株式アル差金會社ニ
付適施スルヲ得ス殊ニ其株式ニ前記レタル千八
百五十六年七月十五日ノ法律ニ依リ賣讓スルヲ
得ヘリ且無記名タルニ至リレ時ハ株式所有変更
ヲ公告スルヲ至少ノ利益ナク違フ時第百四十二
四條ニ依テ嚴罰スルノ理由ナキヲニ注意スヘシ
差金會社モ合名會社ト同一ノ法ニ依テ終ルト雖
モ其特種ノ性質ヨリ生スル一箇ノ差違アリ

合名會社ハ社員中ノ一人ノ死去治産禁家資分散
ニ因テ終ル蓋シ合名會社ノ性質ナル社員連絡ノ
責任アリテ以テ抑々會社創立ノ際各社員ノ人品
竅ニ緊要ノ地位ヲ占ムルヲ以テ之ニ及シテ
株式アル差金會社ニ於テハ差金人ノ資金人品ニ
代テ緊要ノ地位ヲ占ム殊ニ株式ヲ賣讓スルヲ得
レハ株主ノ人品奈何ハ更ニ緊要ナラス故ニ株主
ノ死去治産禁家資分散ハ株式アル差金會社ノ解
散ヲ来シスノ効アルコトナシ
株式ナキ差金會社ニ於テハ集合人ノ品評會社成

立、專一ノ元素トナルヲ以テ合名會社ト同一ノ
規則ニ從フヘキモノトス
株式ノ有無ニ拘ハラス差金會社ノ支配人死去ス
ルハ當然會社ヲ解散スルノ理由ヲ生ス支配人
ノ治産禁若クハ家資分散ニ至ル時モ亦然リトス
然レモ千八百五十六年七月十七日ノ法頒布以來
ハ支配人ト並ニテ觀察會ヲ設置シ如クシテ以テ會
社ノ利益管理ノ事ニ較シ人品ノ如何ヲ論セサル
ニ至レリ因テ支配人死去若クハ治産禁分散ニ至
ルハ會社ヲ解ツヲ得サルヘシトノ説其理アルカ
五十一

如レ
會社ノ規程中會社解散後決算ノ方法ヲ定メル
時ハ法律ニ依ラサルヲ得ス而シテ其法律ハ合名會
社ノ部ニ於テ記セシ所ノモリヲ以テ均シク之全
會社ニ遠施スベシ
會社ノ名義ニ係ル詞訟及ヒ社員相互ノ詞訟ハ商
法裁判所ノ審權ニ属スルヲ合名會社ニ同シ

無名會社

第二十九條 無名會社トハ社員ノ名ヲ以テ會
社ノ名義ト爲サレモノトス
無名會社トハ其社員ノ名稱ヲ以テ會社ノ名義ト
爲サレルニ起ル而シテ會社外ノ者モ亦其名稱ヲ會
社ニ附與スルヲ得ス
第三十條 無名會社ハ其目的ト爲ス事業ヲ以
テ其名稱ト爲ス
例ヘテ何々保險會社製鐵會社バンクドフラ
銀行何々鐵道會社等々其目的ト爲ス所ノ營業

ヲ指示ス而一度其名稱ヲ確定シタル上ハ其名稱
ハ即チ^{會社}所有物ト成^{スル}ヲ以テ覺業者ニ於テ之ヲ冒
稱スルヲ得ス

第三十一條 無名會社ハ社員ノルト否トヲ問
ハス又給^{出料}ノ有無ヲ問ハス受任ノ期限アリテ
免點スルヲ得ヘキ代理人其事務ヲ管理スヘシ
千八百六十七年七月十四日ノ法律ヲ以テ本條
ヲ廢シ同上ノ法律第六二條ヲ以テ之ニ代フ曰
無名會社ハ社員中ヨリ舉^テ給^料ノ有無ヲ問ハ
ス受任ノ期限アリテ免點スルヲ得ヘキ一人或

數人ノ代理人其事務ヲ管理ス可シ其代理人中
ニ於テ一人ヲ推選シテ頭取ト爲スヲ得又會社
ノ規程ニ戻ラサレハ會社外ノ者ヲ以テ代理人
ノ復代理人ト爲スヲ得但代理人ハ會社ニ對シ
復代理人ヲ保證スヘキモノトス
支配人ヲ選任スル付斯リ餘地ヲ存スルハ無名
會社ノ特別ナル性質ノ然ラシムル所トス蓋シ無
名會社ニ於テハ推ノ資金株式ヲノミ是ト問ヒ其
所持人ノ如何ヲ問フナリ株式若干ノ所持人ヲ
ル會社ノ處置上ニ付會議ニ參シ可否ヲ決スルノ權

アルモトス會社ノ事務管理ノ方法ニ至テハ會社ノ規程ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
支配人選任ノ法及^式會議ノ權限開會ノ期紀律決議ノ方等亦規程ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
若レ會社ノ規程ヲ規テ支配人ニ要件ノ條件ヲ詳悉シタルヲナキハ名代ノ事關スル民法上一般ノ法規ニ依ルヘシ
會社規程ニ及對ノ條規アルニテサレハ支配人ノ^職受任ハ全ク管理上ノ行事ニ限ルヘシ故ニ不動產ヲ書入質トシ又ハ賣拂フ等苟モ所有權ニ關ス

ルノ處置ハ自ラ禁シタルモノトス
會社ノ規程ニ戻ラサル以上ハ支配人ハ詞訟ヲ知解シ若クハ仲裁ニ附スヲ得又管理上ノ事ニ關スル詞訟ニ付會社ノ名代人トナリテ審廳ニ出ルヲ得ヘシ
要スルニ會社ノ規程注釋ヲ諸事規畫定スル條件由ハ一般ノ會社ノヲノ法律ノ命令規定スル條件及ヒ前第三十一條ニ掲ケル主義ノ外之ヲ制限スルヲナシ

第三十二條 管理人ハ其受取りタル委任狀ノ如

執行ノ可キ事、ミテ擔當スヘシ。
管理人ハ其管理上ノ事ニ付會社ノ約束ヲ自己
ニ擔當スルニ及ハズ又連結シテ擔當スルニ及ハズ
是ニ因テ管理人ハ其委任ノ權限ヲ超過スルニア
ラサレハ一身ニ擔保ノ責ヲ負フコトナリ其權限内
ニ於テ處分セシムル事ハ皆會社ヲ其責ニ任セシム
第三十三條 無名會社ノ社員ハ會社ノ為ニ
幾許ノ損失アリト雖モ其會社ニ供出シタル金
高ノコト失フ可キモノトス
爰ニ於テハ彼ノ差金會社ノ社員ニノ管理ノ事ニ

干渉セシ者ノタメノ負ハシメタル責任ニ等キ變例
アルコトノシ實ニ前條ノ確明ナル何レノ場合ニ於
テ無名會社ノ社員ハ其會社ノ金櫃ニ向テ為シタ
ル投金ノ高外ニ於テ會社ノ負債ヲ擔當スルニ及
ハサルナリ
差金會社ノ部ニ於テ^{會社}資本金募集ノ際ニ當リ其募
集ニ應スルノ事ハ民事上ノ所為ニシテ商業上ノ
所為ニアラス故ニ商法裁判所ノ審權ニ屬セス又
催收拘留法ニ處ス一カラスト説ケリ無名會社ノ
資金募集ニ付テモ高ホ然リトス

第三十四條 無名會社ノ資本金ハ之ヲ同價ノ株式ニ分テ又ハ同價分株ト為スヲ得

株式ノ價額ハ彼ノ差金會社ニ於ルカ如ク法律ヲ以テ其多寡ヲ定ムルヲナキヲ以テ會社ノ規程之ヲ定ムレシ而シテ其株金ノ現出ノ期法律及ヒ違約者ニ對スル責任ノ事モ亦規定ニ以テ詳悉スルヲ一般ナリ

株主ニ於テ約定ノ如ク株金ヲ現出セサルハ多ク會社ニ其出金不足ノ株式ノ番号ヲ公告ニ以降十五日内ニ其出金ヲ完了セサルニ於テハ株式

商會ニ於テ其株式ヲ賣却セシム而シテ其賣却ニ因テ生スル損益ハ其株主ノ引受トス

第三十五條 株式ハ無記名ノ証券ヲ以テ之ヲ証スルヲ得此場合ニ於テ其株式ヲ人ニ讓渡サントスルニハ其証券ヲ交付ス可キモノトス

株式ニ屬スル權利ノ其証券ノ所持人トナル處ノ者ニ轉移ス而シテ此所持人タル權利ノ行動ハ單ニ株式證券ヲ提出スルニ依テ乃チ會社ニ於テ之ヲ聽スレシ送レシ會社無事營業ヲ為スノ時ニテ之ヲサレハ唯テ株式證券ノ交付ノミヲ以テ其讓渡ヲ

證スルニ足ラナルナリ蓋シ會社解散ノ際ニ當テ
ハ株式證券ハ推テ會社ヨリ取ルヘキ金權ノ證憑
タルヲラニシテ之ヲ他人ニ讓渡セントスルハ
民法第千六百九十條ニ規定シタル法式ニ從フヘ
キモノトスル所ハ民法

第三十六條株式ノ所有者權ハ會社ノ簿冊ニ記入
シタル所ヲ以テ之ヲ證スルヲ得此場合ニ於
テ其株式ノ讓渡ヲ為サントスルニハ其讓渡シ
ル者ヲ會社ニ届ケ之ヲ其簿冊ニ記入レテ讓渡
人又ハ其名代人ニ姓名ヲ手署ス可キモノトス

第三十七條無名會社ハ皇帝ノ允許ヲ得ルニ了
ラカンハ之ヲ成立スヘカラス其會社設立ノ規
程ニ亦皇帝ノ認可ヲ受ク可シ但レ皇帝ヨリ其
認可ヲ為スノ法式ハ行政規則ヲ以テ定メタル
所ニ循フ本條ハ千八百六十七年七月廿四日ノ
法律ヲ以テ廢レトナリタリ該法第二
十一條ニ曰ク未ダ有名會社ハ政府
ノ允許ヲ受クルヲナリ之ヲ設立スルヲ得レ
商業ノ旺盛ハ職トシ自由ニ是レ依ルヲ以テ政府
ノ干涉ハ商業ノ為メ危害ノモノトス蓋シ時ト當局
ノ人トニ依リテ第三十七條實施ノ事ニ付多少ノ
壓抑是利ノ感覺ヲ生シ為ニ官民ノ道義ヲ頹リ且

人民各自ノ協賛力ヲ奪フノ弊ヲ免カレズ從來之
カタノ醜体ト健訟トハ以テ之ヲ証明スルニ足レ
然レモ立法者ノ思考ハ切ニ株主及ヒ社外人ノ利
益ヲ保護セント計リタリ蓋シ無名會社ノ性質ヲ
ル一人特擔ノ責任ナキヲ以テ其結社ノ企圖ニ付
政府ニ於テ其検査ヲ遂ケ其着實ナルヲ認メテ其
効權ヲ與フルハ無名會社ノ体制ヲ以テ企謀スル
大事業ニ資金ヲ投入セント欲スル者ノ為メ至要
ノ安固ト思考シタルナリ是ニ因テ無名會社ノ設
立ハ政府ノ意ヲ以テ之ヲ許否シ其保護セントス

ル利益ニ付有益ナリト判スル處ノ條件ハ之ヲ會
社ノ規程中ヨリ加除スヘキヲ命令シ時宜ニ察テ
ハ特別委員ヲ設ケテ會社ノ行事ヲ監督セシメ其
命令シタル條例ヲ精細ニ履行セサルニ於テハ會
社與ヘタル允許ヲ取り上テ會社ヲ解カレムナハ
百十七年十月廿二日公布シタル内務卿ノ訓條ヲ
以テ政府ニ於テ無名會社ヲ許可スルニ付テ必要
ト為ス條件ヲ義解シテ曰
法律ハ左ノ諸件ヲ查確シタル上許可スヘキモ
ノト為レタリ

一無名會社ノ設置衆人ノ輕信ヲ博スルノ詐計ヲラサルヲ

一會社ノ目的合法實着ニシテ妄誕ナル想像架空ニアラス既ニ結社ノ約書アリ現ニ企業經費支出ノ約定アリ人ヲ誑誘スルノ無實ナル社員ニシレナク真實ナル株主ノ存在スル一告白シタル資金現實スルカ若クハ其支出充分確固ナルヲ

一資金ト企業ト相當應分ナルヲ

一會社ノ事務管理ノ規程社員ノタノ道義上

ノ保障ヲ有レ何レノ場合ヲ問ハズ資金使用上ニ付社員ノ有スル權利ノ行用監督ノ方法ヲ備フルヲ

會社ニ於テ以上ノ諸件ヲ證明シ政府ノ許可ヲ請求スルハ必然其總ヲ得ヘキヲ以テ直ニ資金ヲ募集スルニ其安固ヲ妨クルヲ勿ルヘシ

合上ノ訓條ヲ以テ許可出願ノ手續ヲ指定シテ

一 無名會社ヲ設立セント欲スル者ハ其願書ヲ

所轄ノ縣令巴里府ニテハ警視長官ニ呈出スヘシ

二 願書ニハ株主悉ク其姓名ヲ手署スヘシ但シ

會社ノ規程ヲ以テ株主中ノ一人若クハ數人ニ特別ノ委任ヲ為シルハ此限ニテラス
三 會社營業地其事務管理局所在ノ縣ト異ナルハ會社設置地ノ縣令ニ出シタル願書ヲ其願人ヨリ營業地ノ縣令ニ傳達スヘシ
四 願書ニ添ユルニ株金ノ支出確乎^実不^誤ニシテ皇帝ノ允許ヲ得レハ乃チ會社ノ成立完全ナル社員ノ約束ノ載セタル會社創立公正ノ證書ヲ以テスヘシ

五 會社ノ事務管理ノ章程創立證書中ノ一

部分ヲラサルハ之レト同時ニ差出スヘシ
若シ管理章程ト創立證書ト別々ニシテ私記ノ者ナルハ凡ソ之ニ關係アル者皆悉其姓名ヲ手署シ且商務卿ノ要ソアルハ更ニ公正ノ證書ヲ以テ之ヲ記スヘキ旨ヲ記載スヘシ然而シテ公正ノ證書ヲ以テスルニアラサレハ皇帝ノ允裁ヲ仰リテ得サルヘシ同時ニ公正ノ證書ノ副本一通ヲ本省ニ出スヘシ
六 會社ノ規程ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ
會社ニ於テ企テ管マントスル事業及ヒ其事

業中會社ノ名前ト為サント欲スル稱呼
會社所在ノ地

會社繼續ノ期限

資本金額及ヒ之ヲ募集スルノ方法

資本金全備ノ時期

事務管理ノ方法

以上ノ諸款ニ協フタル願書ハ同上ノ訓條ニ示サ
レタル順序ヲ經テ大政府ニ達ス其詳細ハ之レカ
明記ヲ要セサルヘシ

(第四十條) 無名會社ハ公正ノ證書ヲ以テセサレ

ハ設立スルヲ得ス

政府ノ允許ヲ受ケサル内ハ會社ハ法律上ノ成立
ノ効ナレ故ニ他人ヨリ會社ニ對シ又ハ會社ヨリ
他人ニ對スル詞訟ニ付テハ其景状ニ因リ合名會
社若シノハ差金會社ト者做サルヘシ但シ社員相
互ノ間ニ於テハ然ルニテラス何トナレハ社員ニ
對スルモ社外人ニ對スルモ固ヨリ無名會社ハ成
立セサルヘシト雖モ社員ハ其規程ヲ協議決定シ
テルヘキヲ以テ審廳ニ於テ之ヲ参照シテ判斷ヲ
為スヲ得レハナリ社員其規程ヲ公明ニ討議熟論

レテ決定シタルハ殊ニ然リトス

(第四十五條) 無名會社ヲ許可スル所ノ政府ノ指

令ハ結社ノ定款ト共ニ同時開之ヲ商法裁判所

ノ許可ヲ得ルニ及ハサルヲ為

本條ノ命令ニ違フハ第四十二條ノ罰則ニ究處

スヘシ

會社ノ終ル方法ニ付合名會社ノ部ニ記シタル民

法第千八百六十五條ノ規例ハ無名會社ノ持種性

質ノタメ一ニノ變例ノ外總テ之ヲ適施スヘシ

故ニ約定ノ期限財產ノ滅盡事業ノ成就レ終リタ

ルニ依テ終ルヘシト雖モ社員ノ死去治産禁家

資分散ハ會社ヲ解クノ原因トスルニ足ラス無名

會社解散ノ決算法ハ合名會社及ヒ差金會社ノタ

メ前説レタル所ト同一ノ例ニ依ルヘシ

合名會社

(第四十七條) 前ニ記シタル三種ノ會社ノ外ニ注

律上合名會社(ソシエテ)コンメルシヤール、ア

ン、パルケン、パルシオン)ト称スル會社ヲ認ム

(第四十八條) 此會社ハ一箇又ハ數箇ノ持ニ定メ

ツル商業ニ管スルモノニシテ其目的ト為ス所
ノ事業結會ノ様法出金ノ高共分者間ノ約條ハ
五ニ之ヲ契約シテ定ム可キモノトス

第四十七條ニ於テ共分會社ヲ視テ以テ商法會社
トシ第四十八條ニ於テ其義解ヲ下レ一箇又ハ數
箇ノ特ニ定メノル商業ヲ目的ト為スモノト云ヘ
リ然レモ一箇若クハ數箇ノ商業ヲ為ス者ヲ以テ
直ニ商人ト為サス其商業ヲ以テ常職ト為スニ因
リ初メテ商人ト為ス^{商人ノ義}是ニ因テ共分會社
ノ員タル一事ヲ以テ商人ト看做スヘカラス但シ

其共分會社ニ関スル事件ニ付テハ商法裁判所ノ
審權ニ屬スヘシ
共分會ノ性質ヲ認メントスルニハ總テ共通合
同ノヲナク共分ノヲアルヲ以テ肝要ノ條件トス
各會員ハ所為完全ノ自由特擔ノ責任ヲ保有シ共
分ノ目的タル事業ノ損益共擔ノ外共同ノヲナキ
ナリ^{例令ハ數人組合ノ事}約^{設物若干ヲ買入レ之}定^{ルモノハ共分會}ス
トス^{而ノ其會社ハ一時穀物ヲ買入レ之ヲ賣ス}
ル^{ノ一事ヲ目的トシ此事務ヲ完了スレハ即テ終}
トス^{ルモノ}共分會アリシヨシハ他ノ商法會
社ノツレエテ^一如ク無人^形トナルヲナシ故ニ

會社ノ名義ヲ以テ事務ノ取引ヲ為スヲナク他人
ニ對シテハ會社アレトモナキカ如ク他人ハ其共
ニ取引約定ヲ為シクル共分者ノ外知ルノ要ナク
共分者一已特擔ノ責任ヲ目的ト為スノ外亦他ニ
保障トスヘキモノナシ

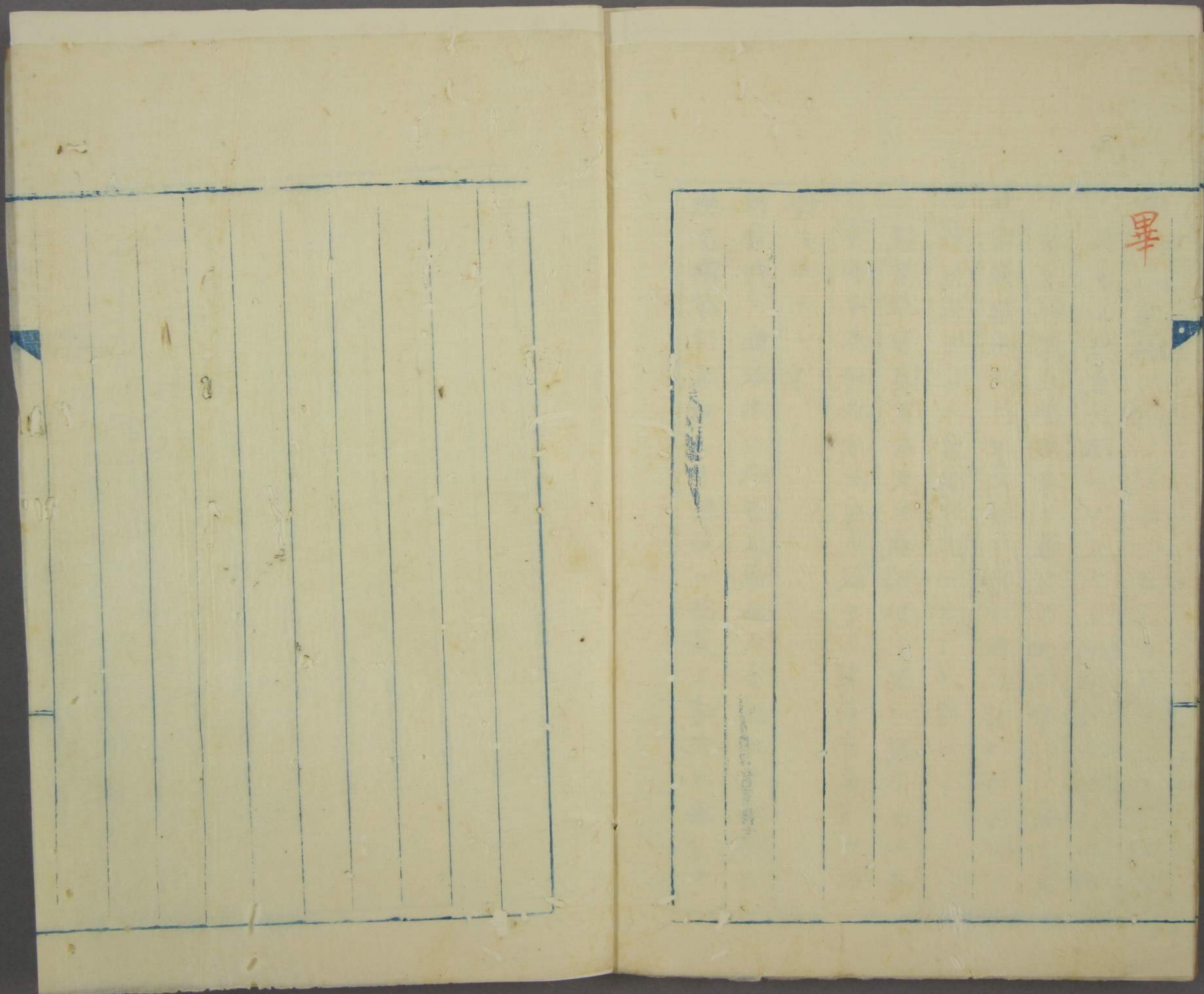
然レ共分者同會員ト名狀シテ合同シテ他人ト取
引約定ヲ為シタルハ連結シテ其責ヲ負ハサル
ヘカラス
到底共分商會タルヤ否ノ景狀ハ審廳之ヲ裁判シ
其詐欺偽計ヲ制シテ公衆ヲ保護スヘシ

共分商會ノ基礎タル契約ハ必シモ書記ヲ要トセ
ス諸種ノ証拠法ヲ以テ其成立及ヒ其特別ノ狀ヲ
證スルヲ得

(第四十九條) 共分商會ノ成否ハ簿冊(商業)及ヒ往
復書狀ヲ提出シ又ハ裁判所ニ於テ聽シタルハ
ハ証人ヲ以テ其證ヲ立ツルヲ得ヘシ

此會社解散ノ丁又同一ノ法ニ依テ證スヘシ
(第五十條) 共分商會ノ設立ハ他ノ會社ノタメ定
メタル法式ニ依ルニ及ハス此商會ハ多ク一時
限リノモノタルヲ

以テ通常ノ會
社法ニ依ラズ



畢

